

# はなみずき



学校だより

鶴岡市立朝陽第四小学校

令和6年7月25日

## 6・7月のスタッフ



これまでお世話になりました  
外国人助手スタン先生



ふるさと山形の魅力を  
たくさん見つけた  
6年修学旅行

## 「忘れえぬ 夏の思い出」

いよいよ夏休みですね。一年で一番長い休みが始まります。子どもたちもワクワクしながら夏休みを迎えることでしょう。それぞれの夏休みが充実したものになることを願いながら、我が子と過ごした「夏休みの思い出」を、「教育」とつなげながら書いてみようと思います。

娘が小学校6年生の時、夏休み何に挑戦しようか親子で相談しました。社会や理科の研究も面白そうだし、工作も面白そう……。いろんな候補からようやく決まったテーマが、「秋の陸上大会で入賞する」。学校の運動会で特に活躍していたわけでもない、春の大会に出たわけでもない、体も小さい娘がかかげたこの目標。「ハードル走」なら技術を向上させれば何とかなると考え、学校のグラウンドや小真木の競技場に通って段階的に練習を積み、ノートに記録しながら、夏のチャレンジを親子で続けました。秋にあった市の学童陸上大会当日、学校の運動会でも一位で走ってきたことがなかった子が、先頭でゴールを駆け抜けた時は感動しました。自信をつけた娘は、中学校でも陸上部に入ってハードルを続けました。

息子とは、水泳にチャレンジしました。おっとりしていて、少し怖がり、小さい頃運動があまり得意でなかった息子は、水泳もあまり得意ではありませんでした。それまでは、顔に水がついただけで何度も手で拭うような子でした。息子が1年生の時の自由研究は「この夏、泳げるようになる」。風呂で息を止める練習、ストローで少しずつ息を吐く練習、息を止めていられる時間は水中でも恐れることはないという理屈の理解。水の中で力を抜く練習などなど。親子で市民プールに何度も通いました。2年間同じテーマで取り組んだ結果、2年生の夏、25mを泳ぎきったことで水泳に自信がついたようでした。

友人にこの話をしたら、「家は、鉄棒の逆上がりテーマにしているようになった」とか、「毎日一品料理を作ったから、家の子は将来一人暮らしをしても料理だけは困らない」とか、「親子でサーフィンに明け暮れて、夏休みの最終日、夕陽を見ながら親子で泣いた」とか、いろんな話ができました。郷土の歴史を調べたり、自然の観察や実験をしたりするのも面白そうだし、「楽器を覚え、親子で演奏する」「親子で100冊本を読む」「この夏、クロダイを釣る」なんていうのもいいですね。これからの学習や生活で自信が持てるような「何か」を身に付け、親子で生涯忘れえぬ思い出をつくる。素敵なことですね。

体験には失敗もつきものです。加茂水族館の村上前館長さんが、ご自身のことを「釣れない釣りを楽しむ達人」と言っていたのが「やってみたら無理だった」というのも、それはそれで思い出深いものです。

大きなイベントでなくていいのです。「親子で楽しむちょっとした体験」にチャレンジしてみませんか。(ちなみに、私の夏休みのテーマは「きれいな星空を探す」です。満天の星、どこにあるのかなあ……)

それぞれのご家庭で、夏休みが「忘れえぬ大切な時間」になりますように……。 (文責 校長)